

【優良受注企業紹介】

先端的かつ魂の宿るモノづくり。  
摩擦攪拌接合の導入を、あらたな契機に。

株式会社 千田精密工業

—創業からの歩みを教えてください。

まず最新の動きからお話すると、前沢町白山にある本社工場を、同町内の本杉工業団地に新築移転させる予定です。すでに前沢町との間で立地協定を締結しており、平成18年の夏ごろに稼働開始の見込みです。

当社が創業したのは昭和54年5月です。その4年後、有限会社として千田精密工業を設立するに至りました。

こうした一方、大槌工場の前身が昭和63年8月、新日鐵釜石製鉄所の構内に進出しました。やがて平成4年11月からは、大槌町に根ざす誘致企業として業容の拡大を進めてきました。

さらに歩みを語る上で欠かせないのが、平成12年秋から(株)千田精密東和として存在感を増している東和工場です。この金型製作の拠点は全社的な技術集積、生産力アップへの貢献度が大きいですね。多様なニーズへの対応力が、いちだんと高まりました。

3拠点の連携は、いかがですか。

まず本社・前沢工場は、技術・生産・経営の全般に渡ってグループの統括機能を担います。他の2工場とはLANで結ばれ、CAD/CAMシステムや受注データ、さまざまな社内情報を共有できる仕組みです。こうした一方、取引先との間にはVAN回線を構築しており、

ITインフラの安定的な運用がスピード感のある生産活動を支えます。

フェイス・トゥ・フェイスの結び付きも緊密です。各拠点の動きを把握する際、私は現場スタッフの生の声を拾うよう努めています。受注状況をチェックする生産会議、進捗確認する工程会議を毎日開き、それらの内容は全社的に公開します。生きた情報と目的意識を分かち合うことで、諸課題の解決策を立てやすくなりました。

モノづくりに関して、本社工場では小型・中型のマシニング加工が得意です。他の拠点にも言えることですが、高品質・短納期・低コストの追求は永遠のテーマです。したがってマシンの能力を活かせるスキル・眼力・情熱を持つ技術者に負う部分は大きいですね。

他拠点の役割を御紹介ください。

沿岸に立地する大槌工場は設備・人員ともにグループ最大規模で、当社らしさが端的に現れる生産拠点という位置づけです。平成16年6月に導入した大型マシニングセンタ(東北初の5面加工機)が設備群の象徴的な存在です。とくにアルミ・ステンレス・チタンなど、難易度の高い非鉄や特殊材の微細加工で実績を積んできました。

さまざまな形状を生み出す切削や旋盤加工に始まり、さらなる付加価値を生み出す特殊加工のレベルも高めて

います。TIG溶接、アルミ研磨、表面ブラスト処理、さらに装置部品の組立などを含め、複合タイプのオーダーにキメ細かく対応できる点が特徴です。

一方、東和工場では量産仕様や小ロットの金型生産を設計段階から手がけるほか、試作用金型やメンテナンスにに対応の幅を広げています。これからは、自動車関連の樹脂金型などにもノウハウを注ぐ方針です。と同時に、グループ内の連携という観点では部品加工の中核として期待されます。

生産品目と受注傾向は?

技術集積度の高いモノづくりに特化する当社の指針は、あくなきチャレンジと自己変革です。半導体製造装置部品、液晶製造装置部品、真空装置部品、そして自動車関連の特殊部品が四つの柱に挙げられます。バリエーションに富んで難易度の高い加工技術、特殊技術をアピールして他社との違いを取引先に分かっていただき、優れた製品そのものを受注力アップへのツールとして活かしているのです。

半導体と液晶の分野では、技術の進化に呼応して次世代型製造装置へのニーズが高まる、と言われています。すなわち、さらなる高効率型・大型化へのシフトです。また、F1レース参戦車両に搭載するエンジンや気化器の部品供給数は100点近くに達しており、

こちらも世界レベルの証と言えます。

将来に向けた取り組みは?

さまざまな可能性に富む先端技術を、受注増に直結させる。そんなプロジェクトを年明けから立ち上げます。いま当社が着目しているのは摩擦攪拌接合で、それは次世代に向けた高品位接合として有望視されています。

突起物のあるツールを金属の接合部に当てて回転させ、摩擦熱と塑性流動熱で軟らかくなった金属を攪拌した後に同化させる原理です。接合材の多様化と大型化、クリーンで省エネにつながる作業環境の実現、さらに強度に優れる微細加工など技術的なメリットが多いですね。イギリスの研究機関・

TWI社を訪問し、この国際ライセンスを取得したのが平成17年12月14日です。

未来に向け、人材を育てることにエネルギーを注ぐ決意です。昨今はコンピュータ万能の風潮が見られますが、そのスキルの習得に励む一方で、モノづくりに関する根本的な心構えを学び、基礎技能をしっかりと修得するよう全社員に呼び掛けています。

自己実現をめざして働く自立した人間同士が会社を動かし、社会の役に立とう。そんな考え方の延長線上で「ゆくゆくは独立の道を選び、開業したい」という生き方も大いに奨励しています。一級と二級を合わせ、技能検定合格者は40名あまり。平均年齢30歳の若き技術屋集団は、高い職業意識を育みながらモノづくりに情熱を燃やしています。



代表取締役社長 千田 伏二夫

企業概要

設立：昭和54年5月1日  
代表者：代表取締役社長 千田 伏二夫  
所在地：  
[本社工場]胆沢郡前沢町白山字反畑7-3  
[大槌工場]大槌町大槌第12地割3-1字柁内  
[東和工場]花巻市東和鷹堂3区1-2  
電話番号：0197-56-2464  
FAX：0197-56-2418  
E-mail：chidaco@mac.ne.jp  
資本金：8,000万円  
従業員数：99名

事業内容

半導体製造装置部品、液晶製造装置部品、真空装置部品、自動車関連特殊部品などの加工・製造ならびに特殊処理加工。東和工場においては各種金型の設計・製造・メンテナンスほか

主要取引先

(株)アルバック、アルバック東北(株)、東京エレクトロンAT(株)、(株)M-TEC、(株)ワイ・デー・ケーほか

主要設備

門型マシニングセンタ[X7,500/Y4,900/Z800...5面加工]・NC精密平面研削盤[X1,200/Y620/Z660]・CNC旋盤[加工径900/長さ860]・テーブル形横中ぐりフライス盤[X3,000/Y2,300/Z1,600]・高速門形型彫盤[X3,000/Y2,600/Z715]・ターニングセンタ[加工径1,200/高さ530]・Tig溶接機500A]・三次元測定機[X900/Y1,000/Z600]ほか

